

年頭のご挨拶

NPO法人日本社会福祉愛犬協会

名誉会長 西田まこと(参議院議員)



皆様、新年明けましておめでとございます。今年の新年は、言うまでもありませんが、これまでに経験したことのない特別な幕開けでした。正月元旦には、宮中におきまして、参賀の機会を得ました。全国的にはとくに日本海側において大雪に見舞われ、おからのコロナ禍に加えて、大変なお正月になったことと存じますが、東京はコロナの感染拡大の一方で、空は青青とそれは見事な晴天に恵まれました。宮中行事を終えて、空を見上げつつ、この天気のように、晴れ晴れとした一年になることを深く祈願いたしました。

このお正月、誰にとっても、「一年前には想像すらできないお正月になった」と実感したのではないのでしょうか。コロナ禍の猛威に、私

たちがどう応戦できるか、とりわけ政治に携わる私どもにとっては、正念場の年となります。医療や介護、交通機関や物流など、エッセンシャルワーカーの皆様感謝しつつ、新たな決意をいたしました。

皆様におかれましては、静かにステイホーム、愛するワンちゃんとともに、お過ごしなされたことと存じます。ワンちゃんもいつもと違うお正月で、ちよつと戸惑っているかもしれませんね。

早ければ2月にもワクチン接種が始まります。これまた経験の無い大規模な接種となりますが、皆様のご協力を得て、何とか新型コロナウイルスに打ち勝つ年にして参りたい。そして、7月には人類がコロナに勝利した証としての東京オリンピック・パラリンピックを成功裏に開催したいと念願しております。

一〇〇年前にも、人類はスペイン風邪(スペイン・インフルエンザ)を経験、アントワープ五輪では、流行がまだ続く中、日本は初のメダルを獲得しました。そして、スペイン風邪後、人々の開放感が爆発して、「Roaring Twenties」、狂騒の20年代、ジャズなど文化が花開く20年代が始まりました。

わが日本でも、この春にはワクチンの大衆接種が進むにつれ、ある時点から人々の開放感が急速に広がれば、景気は急浮上するでしょう。目下、コロナショックで消費は萎縮していますが、それはペントアップデマンドが蓄積されていることを意味します。繰り越された需要が一気に盛り上がると、今年、現代の「Roaring Twenties」の年の始まりになるかもしれません。昨年のお正月、誰もが今日を想像していません。来年のお正月はよい意味で想像を超えるものになります。何卒よろしくお願い申し上げます。本年もお世話になり

